

【十月の言葉（令和二年）】

あればあるで悩み なければないで悩む

『仏説無量寿経（下巻）』に、釈尊（しやくそん）が人間の苦悩の内実（ないじつ）を洞察（どうさつ）された一節があります。

―人間は、土地建物を所有していれば、家屋のことについて悩むものです。家族や財産・衣食・家財道具・日用品に至るまで、あればあるで憂いは尽きません。いつも心配し、何度もため息をついては思考を巡らせるのです。思いがけない自然災害や火災・盗難などに遭遇し、たちまちにそれらを失うと、激しい喪失感に襲われて、自分を見失うほど取り乱し、心の落ち着く暇がありません。

逆に貧困に苦しむ人々もいます。家族や財産・衣食・家財道具・日用品に至るまで、それらを手に入れたいと苦悶するので、持っていないことを不安に思い、何度もため息については憂いに沈んで苦しむばかりです。―（途中省略）

すべての苦悩は「煩惱」という病魔が原因です。根治（こんち）が難しいこの難病に向き合い克服する道を、主治医である釈尊は説かれています。